



報道発表資料の配付日時 3月22日(火) 15時00分

発表項目 (行事名)	第42回全国豊かな海づくり大会の「大会テーマ等」の決定について		
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者	
		発表場所	
概要	<p>○ 令和5年度に厚岸町で開催する「第42回全国豊かな海づくり大会」の大会テーマ等が、北海道実行委員会第3回総会で決定したのでお知らせします。</p> <p>1 概要 ・北海道在住の小学生以上を対象に、令和3年7月19日(月)～9月24日(金)まで募集した作品から入賞作品を決定しました。</p> <p>2 応募作品数 ・大会テーマ：246作品 大会ロゴマーク：145作品</p> <p>3 入賞作品及び入賞者 ・別紙のとおり。なお、本日、実行委員会HPに掲載します。</p> <p>4 入賞作品の活用 ・最優秀作品は、第42回全国豊かな海づくり大会北海道大会の会場に掲示するほか、開催機運の醸成に向けた各種イベントにも活用します。</p> <p>○ 大会の行事計画や運営方針などを盛り込んだ「基本計画」も併せて決定しましたので、実行委員会HPを御覧願います。</p> <p>◆第42回全国豊かな海づくり大会北海道実行委員会HP (北海道水産林務部水産局水産振興課HP) http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/ssk/yutaumi_top.htm</p>		
参考	<p>※ 全国豊かな海づくり大会は、水産資源の保護・管理と湖沼・河川の環境保全の大切さを広く国民に訴え、つくり育てる漁業の推進により、水産業の振興と発展を図ることを目的として、昭和56年に第1回大会が開催されて以来、継続して各地で開催されている国民的行事です。</p>		
報道(取材)に当たってのお願い	第42回全国豊かな海づくり大会のPRのため、積極的な報道をお願いします。		
他のクラブとの関係	同時配付 同時レク	(場所) 道政記者クラブ、水産記者クラブ 釧路総合振興局記者クラブ	
担当(連絡先)	<p>第42回全国豊かな海づくり大会北海道実行委員会事務局 (水産林務部水産局水産振興課海づくり大会担当) (担当者：大友、森木、長澤) TEL (ダイヤルイン) 011-206-6407</p>		

第42回全国豊かな海づくり大会 北海道大会
「大会テーマ」及び「シンボルマーク・コスチュームデザイン」

入賞作品について

大会テーマ

【最優秀賞（採用作品）】 1 作品

<h1>守りぬく 光輝く 豊かな海</h1> <p>（厚岸町・^{たけなかわか}竹中和香・中学生）</p>	
審査委員講評	海に光が当たり、キラキラと輝く景色を次世代に伝え、大切に守りたいという決意が強く感じられ、大会の基本理念をわかりやすく表現している。

【優秀賞】 2 作品

<h2>つなげよう 豊かな海を この先も</h2> <p>（旭川市・^{ふくだかな}福田佳奈・専門学校生）</p>	
審査委員講評	豊かな海をつくり、次の世代にも繋げていこうという、大会の基本理念がわかりやすく表現されている。
<h2>つなげよう 豊かな海を いつまでも</h2> <p>（恵庭市・^{ふじまつけいじ}藤松慶武・一般）</p>	
審査委員講評	海の恵みを未来へ繋げ、いつまでも海を守っていくという決意や力強さを感じさせる。

【佳作】 3 作品

<h2>人と海 豊かな未来に 笑顔咲く</h2> <p>（札幌市・匿名希望・一般）</p>	
審査委員講評	人と海のつながりを表現し、明るい未来をイメージさせる。
<h2>広い海 煌めけ僕らの この地球（ほし）で</h2> <p>（厚岸町・^{わだはやく}和田隼人・中学生）</p>	
審査委員講評	地球規模で海が輝いて欲しいとの想いが伝わってくる。
<h2>どこへでも 広く繋がる 海と夢</h2> <p>（札幌市・^{おがわりりか}尾川琳々花・専門学校生）</p>	
審査委員講評	広大な海を想像させ、将来に向けた希望や可能性を感じさせる。


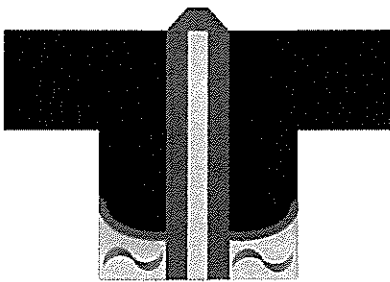
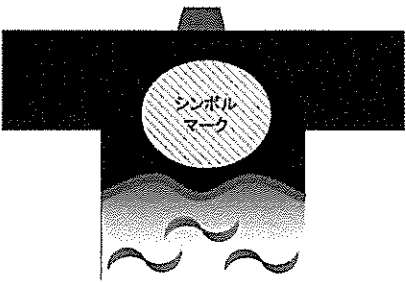
※学生区分は応募当時

第42回全国豊かな海づくり大会 北海道大会
「大会テーマ」及び「シンボルマーク・コスチュームデザイン」

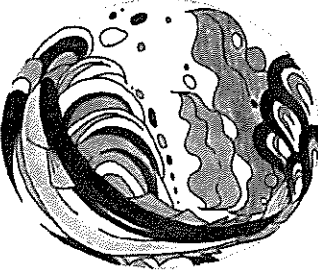
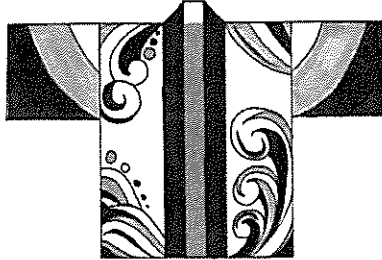
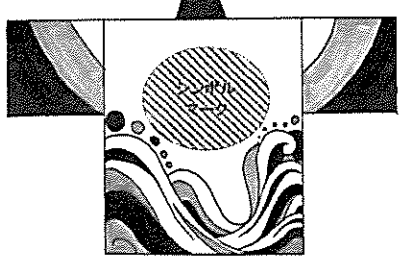

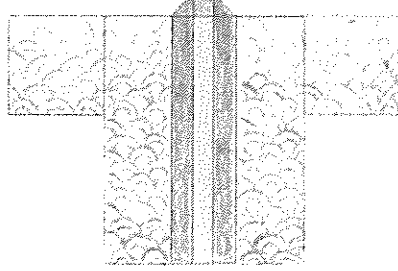
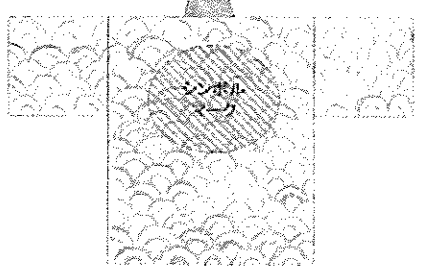
入賞作品について

シンボルマーク・コスチュームデザイン


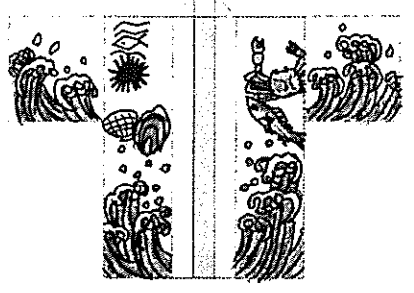

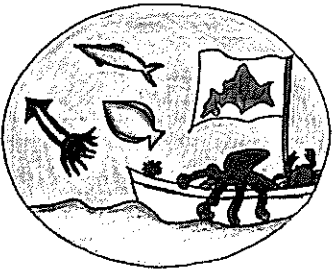
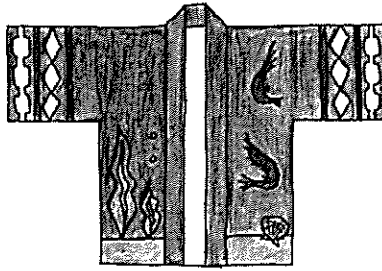
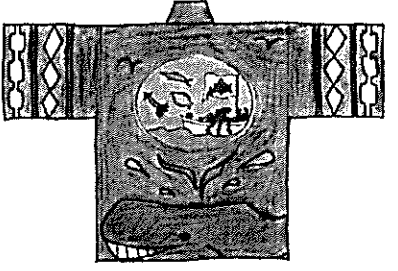
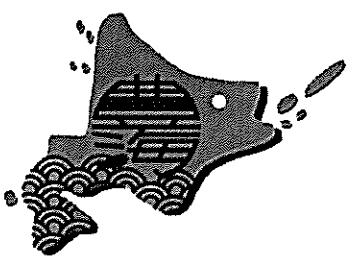
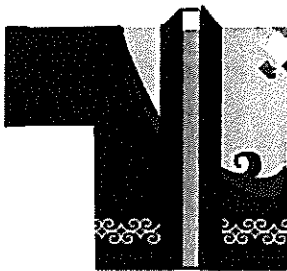
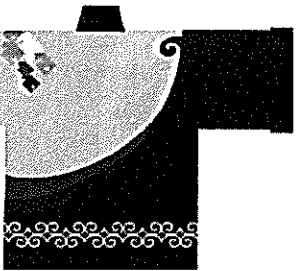
【最優秀賞（採用作品）】1作品

<p>〈シンボルマーク〉</p> 	<p>〈前面〉</p> 	<p>〈背面〉</p> 
<p>（奥尻町・森本明日香・一般）</p>		
<p>審査委員講評</p>	<p>循環や持続可能な未来を「&」「∞」「魚」で組み合わせたり、森と海の密接な関係を稜線と波形で表現し、配色も含め、ひときわ目立つデザインとなっている。</p>	

【優秀賞】2作品

<p>〈シンボルマーク〉</p> 	<p>〈前面〉</p> 	<p>〈背面〉</p> 
<p>（厚岸町・石田優梨愛・高校生）</p>		
<p>審査委員講評</p>	<p>たくさんの海の幸が描かれ、北海道の海の力強さがまとまりよくデザインされている。</p>	
<p>〈シンボルマーク〉</p> 	<p>〈前面〉</p> 	<p>〈背面〉</p> 
<p>（札幌市・最上明美・一般）</p>		
<p>審査委員講評</p>	<p>漁船と漁業者により海づくりの生き活きたイメージを表現し、将来への希望を感じさせる元気なデザインとなっている。</p>	

【佳作】 3 作品

<p>〈シンボルマーク〉</p> 	<p>〈前面〉</p> 	<p>〈背面〉</p> 
<p>審査委員講評 魚が元気に飛び跳ね、豊かな海が表現されている。</p>		
<p>〈シンボルマーク〉</p> 	<p>〈前面〉</p> 	<p>〈背面〉</p> 
<p>審査委員講評 色とりどりの魚介類で北海道の豊かな海が表現されている。</p>		
<p>〈シンボルマーク〉</p> 	<p>〈前面〉</p> 	<p>〈背面〉</p> 
<p>審査委員講評 北海道を魚に見立てた斬新なデザインとなっている。</p>		

※学生区分は応募当時

なお、今後「シンボルマーク」は呼称を「ロゴマーク」に変更します。